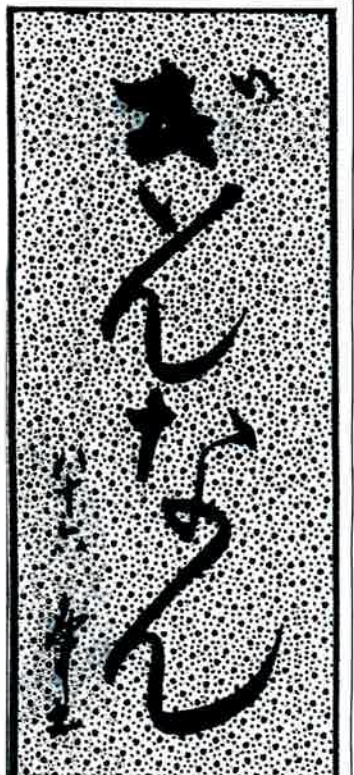




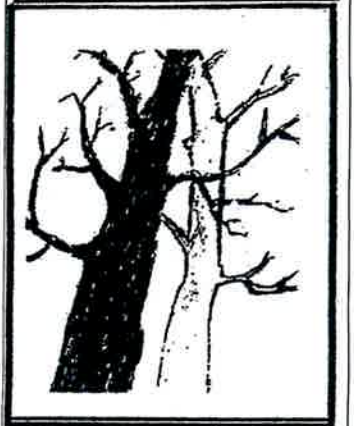
長崎県老人福祉施設協議会主催「介護の日フォトコンテスト」出品作品

かけがえのない人との出会い

縁は異なもの味なもの



発行所 養護老人ホーム
延命園
長崎市寺町3-1
(095)822-8563
発行責任者 園長 堤 祐敬
題 字 池田可宵先生



「人生は、縁があり、巡り合った人たちとの出会いで繋がっていく…。自分の人生を振り返って、強く思う。」と語るAさん。

知らない人同士が、ひよんなことをきっかけに出会い、深くつながっていく。「縁は異なもの味なもの」と、母が話していたことが耳に残っている。

そんなAさんの人生もまた、思いがけず、縁があった人たちとの出会いで繋がっていた。

七人姉妹の長女として生を受けたAさん。母は、出産の為家を空けることが多く、妹たちの世話や家の手伝いをしながら幼少時代を過ごした。

そんなAさんも年頃になり、縁談の話が舞い込んだ。六歳違いの夫との縁談は、その当時町会議員をしていた母のいとこが世話をしてくれた。「年上の百姓の男はど

うか？」と持ちかけられた話に、相手の顔も知らないまま、「よかよ。」と、すぐに答えを出した。夫は、優しくかつたが器量のいい男ではなく、姪から「おばさんは、おじさんの顔をちゃんと見て縁談を決めたのか。」と言われ、おかしかったことを思い出す。

夫は、優しい人で、家業の果樹園を手伝いながら夫婦仲良く暮らしていたが、病気が見つかり、六十一歳という若さで他界した。夫は闘病中、「俺が死んだらどうするか。」と自分の先のことを案じてくれていた。夫が亡くなった後は、すぐではないが、いつか老人ホームに入ろうと心に決めていた。

その後、Aさんは、趣味で通っていたサークルで出会った友人がきっかけで、延命園へ入所することとなる。その集まりに通っていた友人の一人が、延命園という老人ホームから別の施設へ移るのだという話を聞いた。それなら部屋に空きが出るのでは…と、サークルの先生にどうやったら延

命園という施設に入所できるのかと尋ね、すぐさま入所申請を行った。その友人とは、入れ替わりになってしまい、「あなたが来るんだったら施設を移ることはなかったのに。」と悔やまれた。しかし、Aさんにとっては、その友人との出会いが、延命園との縁を運んできてくれた。Aさんが、六九歳の春だった。

入所して間もなく、かけがえのない、生涯の友人との出会いがあった。その当時から延命園の居室は二人部屋。相性が合わない相手と過ごすこともあった。ある時、同室になった女性に、どこの出身か尋ねたところ、Aさんが、しばらく生活していたことがある懐かしい土地の出身者だった。お互いに、若い頃を過ごした土地への思いを馳せ、夢中で語り合った。そのことをきっかけに、お互い心がほぐれて、親しくなり、心を許せる掛け替えのない友人となっていた。趣味活動、旅行、外出…いつでも行動を共にし、彼女の存在がAさんを支え続けた。彼女が他界し数年経った今でも、

心の中に生き続けている。

「ほんと、延命園に入られて良かったですよ。あの時、サークルに通っていなければ、延命園という老人ホームがあることすら知らないままだった。食事は栄養満点！介護さんたちからも何から何まで良くしてもらって何もいう事はなかですよ。」と、日々感謝の気持ちを忘れずに、穏やかに延命園での生活を送っているAさん。入所して、二十年目の春を迎えようとしている。

「袖振り合うも多生の縁」ということわざもあるが、縁あって同じ施設で生活することになった方々との出会いを大切に思っ過ぎて過ぎてほしいと切に願う。



☆Bさん(九十一歳)

なんとといっても頭に浮かぶのは主人の事やね。感謝でいっぱい。「なれそめ」はお見合い。心が優しくかったので結婚を決めた。思った通り、優しい人やった。私は「飯炊き女房」になったとき。當時を思い出すと今でも大笑いしてしまふ。



☆Fさん(七十歳)

ご主人の兄嫁(義理姉)さんとの出会いが人生の中で一番の支えになっている。子育てや夫婦間の話など、さまざまな相談に乗ってもらい、現在の自分があると思っています。

☆Aさん(八十七歳)

一歳半の時に亡くなったお母さんに会えるものなら会ってみたくて。これまでの人生で色々な人たちとの出会いは小説になるぐらい沢山で、お教養をもらった。皆さんに感謝している。これから先にもドキドキしている。

☆Cさん(六十九歳)

奥さんと出会ったこと。思案橋の東洋軒の前で自分から声をかけたことが出会いのきっかけ。結婚してからは思案橋の東洋軒の前で自分から声をかけたことが出会いのきっかけ。結婚してからは思案橋の東洋軒の前で自分から声をかけたことが出会いのきっかけ。

☆Eさん(八十九歳)

四十代で引越した時、隣近所の同じ年くらいの女性と仲良くなり姉妹以上の仲間になった。毎日家に来る雨が降ると、矢が降ると飲んで食べて話して楽しかった。浜屋や岡政に行っていた。今は亡くなったけどよか人だった。

☆Dさん(八十八歳)

十九歳の頃、戦時中に海軍工廠で働いていた。船に乗っていた一人の男性が好きだった。休み時間に海岸の方を歩いていたらその男性が船から降りてこようとする姿を見て、走って逃げた。その頃は恋愛をしたら罰せられるような時代だった。そのあとは戦争も終わりました。美容の仕事に就いた。その男性とは二度と会うことがなかったが、今も忘れられない人。

＊あなたの人生で印象に残っている縁はなんでしょうか＊

今回は皆さんに縁についてお伺いいたしました。



ご覧ください決算書



行ったり来たり

三月の行事予定をご紹介します

- 一日 懇談会・食事・生活委員会
- ウエスレヤン大学プレ実習生
- 三日 踊りのボランティア
- 桃の節句(桃饅頭)
- 七日 散髪ボランティア
- 九日 深堀ボランティア
- 十日 裁縫ボランティア
- 濱本理容店
- 二十一日 福祉サービスクラブル委員会
- 二十三日 純心大学プレ実習生
- 二十四日 避難訓練
- アーサロミーズの
- 裁縫ボランティア
- 深堀ボランティア
- 二十八日 平和理容院・作るう会
- 三十日 山里中学校プラスバンド部
- 三十一日 お花見・お茶会
- 裁縫ボランティア
- 演奏会

項目	令和27年2月21日	令和28年3月31日	増減	前年度比	増減率
現金	51,429	51,429	0	0	0%
預金	11,934,349	11,934,349	0	0	0%
有価証券	205,912	205,912	0	0	0%
固定資産	16,250,910	16,250,910	0	0	0%
負債	2,784,910	2,784,910	0	0	0%
純資産	13,472,762	13,472,762	0	0	0%

項目	令和28年4月1日	令和27年3月31日	増減	前年度比	増減率
寄付金	37,760,000	37,760,000	0	0	0%
経費	4,190,000	4,200,706	-10,706	-0.2%	-0.3%
経費削減	109,582,900	109,624,712	-41,812	-0.0%	-0.0%
経費削減	27,750,000	27,858,186	-108,186	-0.4%	-0.4%
経費削減	120,000	120,000	0	0	0%
経費削減	570,500	728,023	-157,523	-27.5%	-21.6%